

## 問題【国語】

次の文を読み、後の問に答えなさい。

雪のいと高う降りたるを、例ならず御格子まゐりて、炭びつに火おこして、物語などして集まりさぶらうに、

「少納言よ、香炉峰の雪いかならむ」と仰せらるれば、御格子上げさせて、御簾を高く上げたれば、笑はせたまふ。

注 少納言：清少納言のこと。一条天皇の後（きさき）である中宮定子に仕えていた。

仰せらるれば：（中宮定子が）おっしゃったので

問 「笑はせたまふ」について、なぜ、定子はお笑いになったのか、その理由の説明になるように、下の（A）には5文字と（B）の中には2文字で本文から言葉を抜き出して答えなさい。

中宮定子が清少納言に「（A）はどういうものか」と尋ねたところ、清少納言が（B）を高く上げて答えたから。

## 豆知識

## 雑学コラム

## 平安時代の教養は？

今回は「枕草子」の中から出題しました。雪がたくさん積もり、格子やすだれを下げた部屋に集まって話をしているところに、中宮定子が「香炉峰の雪はどういうものか」と尋ねたところ、清少納言が御簾を高く上げて答え、定子がお笑いになったという内容です。さて、どんな場面かは理解できたと思いますが、なぜ、そもそも「香炉峰の雪」とは何でしょうか、なぜ「御簾」を上げたのでしょうか。見ていきましょう。

「香炉」とはお香を入れる容器のことで、「香炉峰」は「香炉」に似た形をした中国の山のことです。この「香炉峰」に積もった雪について、中国の有名な詩人である白居易が漢詩の一節で「香炉峰の雪はすだれをかかげて見る」と詠みました。定子はこの漢詩を踏まえた問いかけをし、それを見事に答えた清少納言にうれしくて笑ったという話です。

漢詩を引用して会話していたと聞くと小難しい感じがしますよね。平安時代には、天皇の后とそれに仕える人物には、漢詩などの文学についての教養が必要とされていました。平安時代の人にとって漢詩を知っていることは、現代人が人気ドラマの決めセリフを知っているような感じだったのです。こうして考えると、定子と清少納言にとってこのやり取りは、現代人がドラマのセリフを引用して、会話をするような感覚だったと考えると親近感を持てる話だと思いませんか。

さて、今回の「枕草子」の場面を読み、その内容を理解するために、白居易の詩を知る必要があることを見ていきました。他にも、芥川龍之介の「羅生門」が「今昔物語」を基にした作品であるなど、文学作品には他の作品に大きく関連がある作品がたくさんあります。また、来年から始まる大学入学共通テストでは、こうした2つの関連ある文章を読み、その相違点を答える問題が新たに出题される予定で、ますます、2つの文章を比較する能力が必要とされてきます。読書を楽しむには、1つの作品だけを読むのではなく、その作品と関連あるものを読んで、深く理解することも大切な要素なんですね。